

特集／視覚失認

シンポジウム「視覚失認」まえがき

遠 藤 正 臣

(富山医科薬科大学神経精神医学教室)

神経心理学懇話会のお世話をすることになり、先ずシンポジウムのテーマえらびが焦眉の問題となりました。といいますのは例年 9 月の懇話会の開催を、世界神経学会のために 2 ヶ月繰り上げざるをえなかったためです。そこでこれまでのシンポジウムのテーマをあげますと、

第 2 回 (金沢医大 鳥居教授): Disconnexion Syndromes

第 3 回 (東大 豊倉教授): 漢字・仮名問題を中心として

第 4 回 (京大 大橋教授): 失行を中心として
がとりあげられていました。そこで視覚失認をテーマにと考えましたところ、世話人の方々の大方の賛同も得ましたので視覚失認としました。しかし視覚失認のすべてを対象とすることは到底無理ですので、純粋失読と視空間失認をはずすことにしました。その間の経緯は、この特集の中の大橋先生の「視覚失認論の展望」に述べられている通りです。

テーマの大きな決定に続いてシンポジウムでとりあげる病態とシンポジスト・ディスカッサントを選ぶことに移りました。視覚失認の代表ともいべき物体失認をとりあげることは当然として、形態認知の特殊型として劣位半球との関連が取沙汰されている相貌失認、更に色彩失認を論じていただくことにしました。これらに加えてより要素的なレベルの障害の 1 つである視覚保続を、また高次の知性障害との関係が問題となっている同時失認をもとりあげることにし、これらを各論とすると、それに対する総論として「視覚失認論の展望」を冒頭におくことにしました。また神経心理学が本来学際的色彩の濃い学問であることに鑑み、関連分野の 1 つである神経生理学の今日的知見から視知覚を解析していただくことも考慮し、これらサブテーマについて精力的に発表されている方々にシンポジスト・ディスカッサントをお願いすることにし、以下のような構成としました。なお一般

演題のうちシンポジウムに関連する演題が 11 集まり、それぞれのセクションに加えました。

Didactic Lecture

1. 視覚失認論の展望 (京大 大橋先生)
2. 視知覚の神経生理学 (都神経研 酒田先生)

Symposium (⑩は指定討論を意味する)

1. 視覚保続症について (鳥取大 深田先生)
⑩脳梁損傷による Visual Extinction 現象について (東大 岩田先生)
2. いわゆる“物体失認” (日大 野上先生)
⑩“物体失認の 2 症例” (大牟田労災 志田先生)
3. 相貌失認の神経心理学 (京大 浜中先生)
⑩相貌失認の剖検例 (近畿大 東谷先生)
4. 大脳性色覚障害について (大分医大 藤井先生)
⑩大脳性色覚障害、色彩失認及び色彩呼称障害の問題点 (東大 杉下先生)
5. 同時失認について (京都第 1 赤十字 大東先生)
⑩同時失認 (金沢医大 榎戸先生)

Didactic Lecture ならびにシンポジストの方々の発表内容を活字を通して読み返してみまして、その内容が豊かでかつ密度の濃いことで御担当の方々に感謝申しあげる次第ですが、読者の方々は以下に掲載の論文によって内容を熟知していただくとして、ディスカッサントの方々の発言内容を紙数の都合で割愛せざるをえなかったことを残念に思っております。大橋教授・豊倉教授・鳥居教授の御尽力により懇話会が学会に発展することになりましたが、学会機関紙の発刊がこの問題を解決してくれとすれば、その日の早い到来を願うものであります。

最後に Didactic Lecture の先生方、シンポジスト、ディスカッサントの諸先生の御協力に感謝申しあげると共に、各セクションの司会として活気あるシンポジウムにと意を尽していただきました、豊倉・大橋・山鳥・浅川・鳥居の諸先生に心から御礼申しあげます。